

平成 24 年度 結核患者接触者健診における QFT-TB Gold 法による検査状況

築地 裕美 田内 敦子 佐多 俊子 児玉 実
石村 勝之

はじめに

結核の接触者健診の目的は、発病前の潜在性結核感染症の早期発見、新たな発病者の早期発見および感染源・感染経路の探求である。

現在、結核感染の補助的診断法として Interferon-Gamma Release Assay (IGRA) 検査が普及しており、平成 24 年 11 月には従来のクオンティフェロン (QFT) 検査に加え、T-スポット・TB 検査が保険適用となった。なお、当所では行政検査として QFT 検査を実施している。

今回は、平成 24 年度に QFT-G を用いて実施した結核患者接触者健診検査の状況および結果について報告する。

方 法

1 材料

平成 24 年度に対象となった患者 77 名の接触者 309 名について、各区保健センターにて採血し、QFT 検査に供した。

2 検査方法

QFT-G 検査キット (cellestis 社製) を用い、インターフェロンの定量を行った。

3 判定結果の検討

接触者 309 名の年齢分布および接触状況を同居または別居家族、友人、同僚・会社関係、塾・学校関係、医療従事者 (実習生を含む)、病院・施設職員、介護・訪問看護、病院同室・施設利用者 (デイサービス等) およびその他の 10 区分に分類し、判定結果との関係について検討を行った。

結 果

1 事例概要

対象となった患者は 10 か月～98 歳 (平均 64.7 歳) の 77 名であった。なお、10 か月の患者 (乳児) は生後から咳をしており、コッホ現象および血沈の亢進を認めたため、潜在性結核感染症と診断された者である。

患者は 60 歳以上が 6 割 (49 名, 63.6%) を占め、40 代 (8 名, 10.4%)、50 代 (6 名, 7.8%)、30 代 (5 名, 6.5%) の順に多かった (図 1-1)。さらに、

60 歳以上の年齢を細分すると、80 代が約半数 (25 名, 51.0%) を占めていた (図 1-2)。また、ガフキ一号数は不明例を除いて、2 号 (12 名, 15.6%)、1 号 (9 名, 11.7%)、4, 5 および 6 号 (各 7 名, 9.1%) の順に多かった。

2 接触者健診 QFT 検査結果

平成 24 年度は、家庭や会社等での 8 歳～90 歳 (平均 41.1 歳) の接触者 309 名を対象に実施した。

(1) 判定結果

結果は、陽性 38 名 (12.3%)、判定保留 22 名 (7.1%)、陰性 249 名 (80.6%) であった。また、判定不可例はなかった。

(2) 事例別判定結果

陽性または判定保留を認めた事例数は 32 事例 (41.6%) で、その内訳は陽性のみが 5 事例 (6.5%)、判定保留のみが 1 事例 (1.3%)、陽性および判定保留ともに認められたのは 26 事例 (33.8%) であった。また、全て陰性となった事例数は 45 事例 (58.4%) であった。

(3) 年齢分布および接触状況

接触者の年齢は、30 代 (78 名, 25.2%)、50 代 (64 名, 20.7%)、40 代 (56 名, 18.1%)、20 代 (54 名, 17.5%) の順に多かった (図 2)。また、年齢別陽性率は 60 歳以上 (25.0%)、50 代 (15.6%)、30 代 (11.5%) の順に高かった。一方、判定保留率は 50 代 (12.5%)、20 代 (11.1%)、60 歳以上 (8.3%) の順に高かった。50 代以降は、陽性率および判定保留率ともに高い傾向にあり、特に陽性率は 40 代以降上昇傾向にあった (図 3)。

接触状況は、同僚・会社関係 (99 名, 32.0%)、別居家族 (60 名, 19.4%)、同居家族 (47 名, 15.2%)、病院・施設職員 (28 名, 9.1%) の順に多かった (図 4)。また、接触者が 1 名であった友人を除いて、接触状況別陽性率は同居家族 (25.5%)、病院・施設職員 (17.9%)、病院同室・施設利用者 (14.3%) の順に高かった。一方、判定保留率は医療従事者 (11.1%)、同僚・会社関係 (9.1%)、同居家族 (8.5%) の順に高かった。同居家族は陽性率および判定保留率ともに比較的高い傾向にあった。

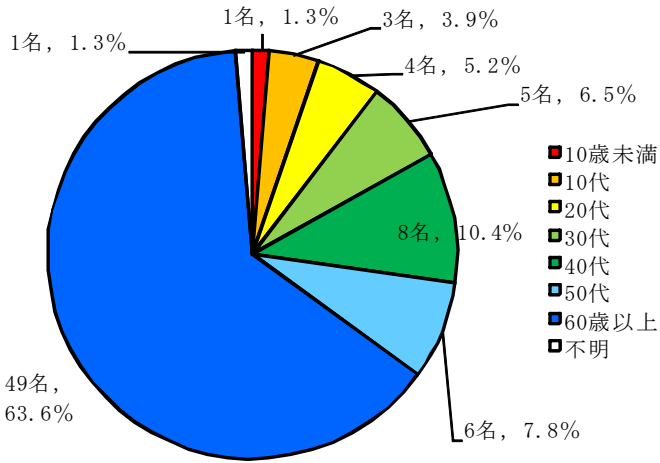


図 1-1 患者の年齢別割合

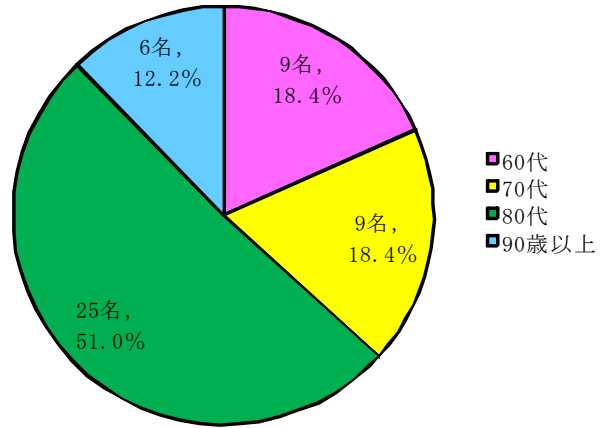


図 1-2 患者の60歳以上の割合

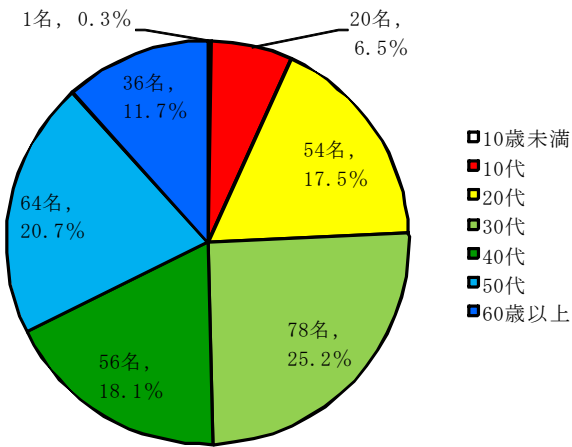


図 2 接触者の年齢別割合

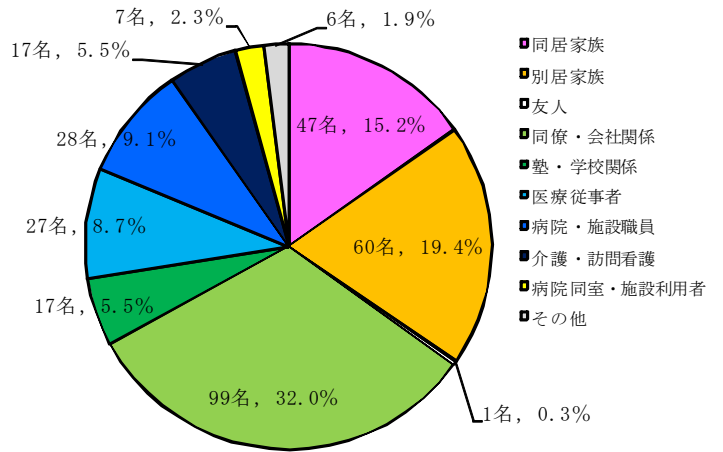


図 4 接触状況別割合

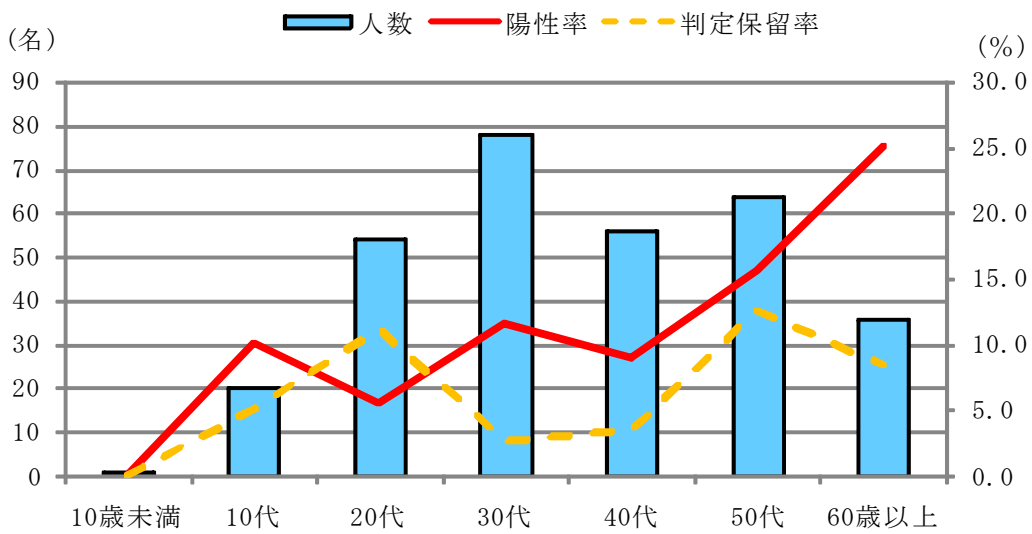


図 3 接触者の年代別陽性率および判定保留率